



# オフィスも住居も着々とエコ化が進行中 格付け認定が普及の大きな原動力に



住居用グリーンビル、The Solaire（上左）はゴールド認定（上右）。屋上ガーデンは熱の吸収と、憩いの場として機能する（左）



The Helena（上右）は、ハドソン川からの強風を使った風力発電を積極的に活用（右）。廊下の照明は人の動きを感知してつく（上左）



米国では「グリーン」を公言業に環境への取り組みが活発だ。ホットなのがグリーンビルディング。環境に配慮しているか、ビルを審査する制度で、1200超のビルが査定を待つという人気ぶりだ。

格付けの基準は、全米グリーンビルディングカウンシルが設けた項目5つ。「土地の有効利用」「水の有効活用」「エネルギーの効率的使用と空気浄化」「室内（リサイクル）建材の利用、建築廃棄物の処理など」「デザインの革新性」の観点で審査する。獲得ポイント数に応じてプラチナ、ゴールド、シルバーなどの格付けがビルに付与され、グランドゼロに建つオフィスビルの場合、ほとんどが認定を済ませた。

ゴールドの代表例、52階建ての7 WTCビルは、雨水を冷房やトイレ、周辺の公園などに利用。ビル内の空気浄化でアレルギーを防止、働く人々の健康にも配慮した設計が評価された。鉄筋はリサイクル素材を多用し、外壁ガラスはソーラーパネルで自然光を吸収して室内の電力量を抑制している。

同じくミッドタウンの国連ビルは19億ドル（約2130億円）の予算

この動きは一般住居にも広がりをみせる。バッテリーパーク地区のThe Solaireが全米初で、格付けはゴールド。24時間浄化された空気が各部屋に送られ、排水は再利用、電気消費量は約35%も抑えている。家賃は3LDKで6500ドル（約73万円）と、かなりの額だが、「子供の健康に良く、光熱費も安いので長期的には得」と居住者は満足げな様子。また、The Helenaの格付けもゴールドだ。エレベーターやロビーの明かりなど、必要とする電力の5割は風力発電で賄い、生活排水は屋上の庭園やトイレに再利用。廊下のじゅうたんもリサイクル素材という徹底ぶりだ。

ニューヨーク市は、今後、中間所得層向け住宅もグリーンビルディングに対応させていくという。

再開発が進むワールド・トレード・センター跡地。エコ志向のビルが多く建つ予定



再開発が進むワールド・トレード・センター跡地。エコ志向のビルが多く建つ予定